

菊池 実 師

ルカ19章36-38節はイエスが十字架の5日前の日曜に都に向かう時の記録です。一行はロバの子を見つけてイエスはそれに乗り、37節「イエスがいよいよオリーブ山の下りにさしかかると」のとおり都へ下る坂に差し掛かった時のその具体的な瞬間のことです。

この「下り坂」はユダヤ人には特別な記憶のある坂道でした。Ⅱサムエル15:30「ダビデはオリーブ山の坂を登った。彼は泣きながら登り、その頭をおおい、はだしで登った」 息子アブシャロムに追われて、山の裏手「ユダの荒野」に逃げる時の描写です。キリストの時代、このダビデの経験は「戦争よりも大きな悲しみ」と呼ばれてこの坂は人々の心に刻まれていました。この時のダビデの祈りが詩篇3篇にあります。ダビデの賛歌。ダビデがその子、アブサロムからのがれたときに。「主よ。なんと私の敵が多くなり私に向かい立つ者が多くいることでしょう」。7節「私の神よ。お救いください」

7節「お救いください」は「ホサナ」(ホシアニ)と同じ言葉です。今同じこの坂をイエスは賛美に包まれて降りて来られます。マタイは人々が「ダビデの子にホサナ」と叫んだと記し、マルコやヨハネも「ダビデの国に。ホサナ」、「イスラエルの王に」と賛美があったと伝えています。敗北者ダビデが勝利者となった姿を見ています。「ホサナ」は本来「どうか救ってください」の意味であり、ダビデは苦悩に満ちたホサナを叫びました。他方この言葉は時代の中で賛美の言葉となります。37節に人々が「大声で神を賛美し始めて」とあるとおり、イエスに向けられた「ホサナ」は賛美と喜びであったとルカは記します。

詩篇での苦痛に歪むホサナが、今や賛美に溢れるホサナと代えられて、ダビデの祈りが確かに応えられていると知ることができます。今イエスはダビデの子でありつつ、同時にダビデの待ち望んだ救い主としてこの道に戻って来られたということです。ダビデの孤独・痛み・恐れを覆ってくださったイエスを知ることができるのです。それは私たちの痛みや祈りにも届いてくださる方の姿でもあるでしょう。個々の苦しみ・孤独・失望・死の恐れを個々に覆ってくださる姿がこの方にあります。今私たちも個々に経験する困難があり、「救ってください」と祈ります。そこに主は来て必ず慈しみと勝利を与えてくださることを今日はご一緒に心に刻みましょう。